

## 【めむろ未来ミーティング日程 1】

令和2年 1 月 14 日 (火)

10:00～11:00

### 上美生農村環境改善センター

■参加者 9人

■芽室町 町長、企画財政課長、農林課長、建設都市整備課長

■記 録 池田、雨山

#### ■対応・検討が必要な事項

①テニスコートの件（総務課）

②改善センターの備品の件（総務課）

- 1 開会
- 2 町長挨拶
- 3 町からの説明事項  
『公共施設の配置構想』
- 4 意見交換

#### 【意見】

今の町からの説明について、ピウカ親水公園というのは具体的にどう整備するのか決まっていたら教えてほしい。

また、農業試験場宿舍の跡の雇用促進住宅に関しても、どのような人が利用するのか、利用期限など決まっているのであれば知りたい。

#### 【建設都市整備課長】

ピウカ親水公園について。ピウカ川については、平成 28 年の台風の時に川の水がギリギリまで水位が上がり、かなり危険な状態であった。そのことから管理する北海道が河川整備をすることとなった経緯がある。

ピウカ川の親水公園については、以前から町とし

て構想はあったが北海道の河川整備工事に合わせて公園の整備をしたい意向もあり、北海道と連携しながら進めている。内容は、芽室公園、国道 38 号線から 2 丁目通り、約 1.7 km になるが、この川沿いの堤防を含めて散歩できるようにしたり、一部川のほうに近づいて歩けるようにしたりということを、今の段階では考えている。

昨年から構想および設計を進めており、実際は令和 3 年度からの工事を予定しているが、先程お話ししたように北海道と合わせての着手となるため、若干日程がずれる可能性はある。

また、一部花菖蒲園の付近の所に幼児用の公園も併せて整備する計画となっている。

#### 【企画財政課長】

旧農業試験場住宅跡の住宅に関して。先程お話ししたように農業であったり、町内の人手不足に対応するために活用する住宅であり、現在想定しているのは農家や企業に貸し出しをする想定。農家や企業が借りて、そこで働く人たちに会社の責任のもとで住んでもらうというイメージ。

期間としては 1 年以内を想定しており、それより長い方には民間の住宅に入っていただくか、あるいはそれぞれの企業で建物を用意していただき、まずはおためしというか、住んでみて、働いてみなければわからないケースもあると思うので、それに対応できるような住宅を考えている。

#### 【町長】

大枠のお話をさせていただく。まず一番初めに発想として考えたのは、農業の労働力不足が非常に大きくなってきているということ。

かつて農政担当だったということもあり、また私の公約としてもこの労働力確保の問題というのは大きく柱として挙げさせてもらっている。

これは農業だけではなく福祉サイドや、色々な企業とも話していることだが、町内あるいは道外から来る時に、やはり雇用と住宅というのはセットで考えないといけない。

農業の場合、畑作は春・夏・秋がメインだが、そ

うすると冬の仕事を見つけないといけない。そこで、こちらは食品加工を中心とした東工業団地の企業とも既に色々アポを取らせていただき、夏は農業をやり、冬は企業でという通年雇用という形をまずは取れないかと考えている。さらにはそこに住宅がないと住めない。

今まで芽室町のPRの仕方として、あまり住宅というものを整備していたわけではないので、今回こういうものを整備させていただき、全国的に色々PRをしていきたいと思っている。

そこで、就農なのか、農家としての労働力なのか、農場等の会社に作業として入りたいという方もいるかもしれないし、実際に農業をやりたいという方もいる。そういった方を中心に、住んで雇ってもらえるような環境を作りたいという思いからスタートした。

そこに波及して福祉だとか色々な企業の方々も、空きがあれば利用できると思うが、優先としてはやはり農業をと考えている。

面積の大きな住宅であり、単身者でも家族連れでも入居できるものになると思う。

農家に色々話を聞くと、「そうはいつでも圃場までどうするのか」の意見はあるが、これについては先程申し上げた通り、住宅の整備は町としてやらせてもらうが、農家の方でやはり手当なりを考えてもらい、労働力の確保に努めてほしいと思っている。

現在はJAとも協議しているが、正直戸数的に要望が殺到している訳ではないが、これが起爆剤となって道外から色々な方に来ていただけるようになれば、ご要望も増えていくと考えている。

また、よくある質問で移住のおためし住宅について聞かれるが、あくまで今回の目的としては雇用の促進という所をメインにしており、基本的には移住を想定したものではないということをご理解いただきたい。

#### 【意見】

理解した。芽室公園も本当に外から来た人も芝などの綺麗さに驚いてくれるような場所であり、本当

に町内の緑地の素晴らしさは感じている。

上美生でも、地域のお年寄りや子どもたちが集える場所ができればいいという要望が挙がっているので楽しみにしている。

#### 【意見】

改善センターの裏にテニスコートがあり、ここ最近も小学生から大人までテニスをやっているが、実際コート自体が相当古くなっており、ネット等もボロボロで、スズランテープで補修しながらやっている状況。ハードコートにもヒビが入り蟻の巣ができて砂が出ており、状態としてはあまり良くない。せつかく場所があるのだから、きちんと整備すれば綺麗に使えるのではないかな。

もう1つ。その隣にも昔テニスコートがあったが、そこが陥没してしまってひどい状況なので、そこも含めて整備していただけると非常に助かる①

#### 【町長】

施設を担当している課に話をする。テニスコートの話は私も初めて聞いたのでそうした状況であれば地域のスポーツのためにも整備しなければいけないと感じる。

まずは調査をして状態を確認した上で、今仰ったように、修繕を含めて考えたい。

#### 【意見】

長年経ち、この改善センターの備品が古くなって、今現在だいぶ修理をしながら我慢して使っている。見ていただければ分かると思うが、あそこ（会場）に置いている机も含めて、もう使えないものも結構多い。順番にでも整備していただきたい②

#### 【町長】

私も担当には色々言っているが、今上げて頂いたように、まず何をしたいかということ土俵にあげて、その中で計画化して、予算を含めて順番を決めてやっていくのが施設維持の在り方だと思っている。

今日言われたことも帰って担当課にはしっかり話しておくが、皆さんの方からも、このように細かい

所からでも良いので、一度全部洗い出して、皆さんの要望の強さや緊急性等を考えた上で、来年の予算に向けて考えていきたいと思う。

軽微なものであれば、すぐに対応できるものもあると思うので、是非皆さんの方からお声をあげていただきたい。

#### 【意見】

日頃よりNPO上美生の活動についてご理解賜り、誠に感謝している。昨年においては施設の改修ということでコミュニティのスペースを整備していただいた。そのスペースだが、ふれあい広場ということで「ひだまり」という名前をつけさせていただき、多くの皆さんにご利用いただきたいということで交流をしている。特別こういう使い方をしなければいけないということはないので、どんな形でも使っていただきコミュニティを盛り上げてほしいと思っている。

NPOの事業の中でお店の経営をやっているが、非常に厳しい状況が続いている。こちらに関しては町長にお願いすることはできないと分かっているのですが、PR活動等を私達で頑張って何とか盛り上げていきたいと思っているが、町の方でも何か利用できる機会があれば、お客さんとしてでもぜひご利用いただきたい。

加えて、今後、上美生にしかない特産物のようなもの、例えば芽室でいうコーン炒飯のような名物を開発していきたいと思っている。何か良いアイデアがあれば町の方からもご指導いただければ幸いである。

現在、NPOとしてお店以外にもやっていきたいということで、その中でも地域交通に関しては若干現実味を帯びてきており、この春には、ある程度の要望が持っていけそうな状況。

今後とも地域のための活動をしていきたいと考えているので、今後ともご鞭撻を賜ればと思っている。

#### 【町長】

町としてもこの上美生地域の動きは本当に素晴らしいものだし、地方創生の観点からもモデル的な取

り組みをしていると感じる。

仰る通り、町が経営に直接お金を出すということは難しいが、色々な側面でそれぞれの活動に対して何かを支援することは可能。

例えば、親睦なども色々あるので町としての利用や、特産品の開発費用を支援する等、側面的な支援をどのようにできるかを共にしっかり考えていきたい。上美生地域一帯としての思いが盛り上がってくれば、町としても非常に支援しやすいというのが実態で、その部分も是非お願いしたい。

私としても今後色々なシナリオを考えて支援したいと考えており、今後頑張っていきたいと思う。

#### 【意見】

今日未来ミーティングに来ている人が少なく、本当にもったいないことだと思っている。

SNSやホームページでは良く目にしていたし、すまいるにも載っており、お年寄りや地域の方も目にする機会も増えている。こうした機会は地域にとっても大切だと思うので、地域の側として、もう少し多くの方が来てくれるよう働きかけたいと感じた。

やまなみの話について。

私も山村留学等で、やまなみにはお世話になっており、色々ご協力もさせていただいて非常に感謝している。色々な所からの要望だったり、やまなみ自体の方針もあると思うが、町として、今後の活用をどうしていくかという構想があれば教えていただきたい。

#### 【農林課長】

やまなみの施設の管理については農林課の方でやらせていただいております、山村留学に関しては教育委員会の方で行っているため、外の方から見ると、縦割りというか分かりづらい形になっていると思うが、これまでも教育委員会と農林課で連携しながらやってきているし、これからもやっていきたいと思っている。

ご質問の、今後のやまなみの活用について。あの施設は農林水産省の補助を貰って建てているため、農林課の管轄となっている。このこともあり、やま

なみの2階スペースは、町の決まりとして、農業研修生の方に使ってもらうことで整理している。

ただ、現実的にこれまでの状況を見ても中々利用が進んでおらず、先程の質問にもあった雇用促進住宅等、町が労働力確保に向けて住宅整備を進めている中で、いつまでも農業研修生に限定した状況ではいけないとも思っているため、今年の4月からは農業研修生に限定しない利用の仕方も町の条例等も必要に応じて改正しながら広げていきたいと思っている。

いずれにしても、皆様からご意見をいただき、一つ一つルールを変えながら活用を図っていききたいというのが農林課の考えである。

運営については、現実的にはセンター長個人にお願いしているが、やはり地域の施設、地域の山村留学ということを考えていけば、将来的には地域や団体に委託をしていくということがもしかしたら良い形になるということも考えている。そこは、地域の皆様とも話し合いながら、進めていきたい。

#### 【意見】

関連しての意見。

農業実習生をという最大の要望はあるが、やはり食事の時間帯等の問題が大きく、中々利用が進まない。

例えばあそこに泊まりながらKAMIBIでご飯を食べる等、接近した形でやれば、もう少し利用も増えるのではないかな。

もう1つの問題として、農家で体験したいという方や、お嫁さんに来たいという方はいるのだが、受け入れる側に関しても面倒さを感じる方は少なくないし、さまざまな課題により進んでいない。

後継者問題などの難しい部分は大きいですが、やはり実際に住んで知り合うということが非常に大切だと思うので何とか農業体験という形を残してほしい。

#### 【町長】

提案に感謝する。私としても、後継者問題には非常に危機感を感じており、JAは労働支援課を作っているが、やはり生産の方を一生懸命にやらなくて

はならないこともあり中々厳しい状況なので、先程話した雇用促進住宅含め、町は色々やろうとしている。今後、今の促進住宅が農業者で埋まってくれるような状況になってなれば、今度はサテライトというか、別の所を建てる必要性も出てくるので、そうすると、例えば上美生地域にそうした施設を建てるということもあっていいと思う。

また、手続き的には、農水省の補助をもらった時について、現在は補助金の適正化に関する法律の基準からいくとあまり制約を受けなくなってきたので、今までのように農業実習生に限定せず切り離して考えることもあり得ることだと認識している。

食事の問題だとか、クリアできるような施設整備を行い、今後受け入れを考えた上で、まずは町中に雇用促進住宅24戸を整備することでやらせていただきたい。

#### 【意見】

私も農業実習の人たちの住む所がどんどん広がっていけばと思うし、更に来る人が増えれば議論も進んでいくとは思いますが、現状山村留學生もいっぱいいる訳ではないし、繰り返すが食事の問題等もある。

山村留学だとか、やまなみの運営の仕方を変えることでクリアできることというのはすごくあり、私も実際に役員となって指導員として関わっている上で、勝手に自分たちで「できない」と決めつけてしまっていることは沢山あるので、そこを意見交換させていただいて、できること・できないことというのを理解した上で活用しやすくしていきたい。

子ども達にとっても、違う世代の方たちが来ること、色々な大人と触れあうことはとても良い経験になると思うので、まずは、やまなみの使いやすさと、山村留学に関しても、やはり特殊な形なので地域を知っている方と一緒に作っていける形になればと思っている。

#### 【町長】

一つの例として切り離して考えるという考え方もあるし、今の施設の中できちんと機能分担だとか役割分担を果たされて課題も解決するのであれば今の

ままでも良いのかもしれない。いずれにしても現在は農業実習生にほとんど使われていない状態なので、ハードありきということではなく、しっかり考えなければいけない課題だと思っている。

【意見】

労働者不足に関して。

ここ近年酪農家に関しては労働者不足が顕著で、離農やこの先何年後かにはやめるということを考えている方が結構いる。

やはり搾乳等は一人ではなかなか出来ない部分があり、かと言って畜大生を始めとした学生も、今のご時世だと、そこまで頑張って仕事をしなくても良いやという考えの学生も多いのか、募集をかけてもさほど来てくれない。

従業員を雇うとしても、個人事業だと厚生年金等も無く、そうした部分で良い条件ではないので、なかなか来ない。

一番ありがたいのはやはり農業研修生が1年だとか短いスパンでずっと継続的に来てくれるのが経営的には助かるが、そういう募集の仕方を載せていてもうまく伝わらない部分があり、そこを役場や農家さんとも上手く連携して、労働不足を解消していきたい。

【町長】

現在、帯広開発建設部でもネット環境を使って色々募集するやり方の所もある。

ただ、労働力が不足していることは理解しているし、特に酪農家は24時間365日ということもある。本州の方も憧れはあるのかも知れないが、厳しい世界ということでそうした募集にも来づらい気持ちはあると思う。抜本的にどうやればいいのかというのは私達も非常に悩んでいるが、十勝全体でも考える必要はあるし、一方で町でも、雇用促進住宅をどんどんPRをしていかなければならない。

酪農家の方で、個人で外国人を中心に住宅をある程度整備してやっている方も知っているが、皆さんが出来る環境がある訳ではないので、そうした時に、先程言った町の仕組みを使って欲しいと考えている。

加えて、雇用促進住宅があれば全部が解決とは思っていないが、まずはキッカケとして行い、状況をみていきたいと考えている。

関連してよく質問があるのが、そうすると外国人ばかりが来てしまうのではということだが、町の立場としては、やはりできるだけ近い所から人を募集していきたいと思っている。基本的には今まで周知できていなかった日本国内からの募集を考えており、外国人を優先的に募集というのは想定していない。

ただ、仰るように、いくら募集をかけても来ないという実態も分かっているので、色々な手法を考えながらやっていかねばならないという危機感を持っており、今後もJAと連動しながら進めていきたい。

【意見】

資料説明にあった、「ふれあいの居場所」とは何か。

【企画財政課長】

資料1。ゾーニングの考え方で資料には2か所ある。左上の方は西子どもセンターがある場所だが、そこと高齢者の施設が隣り合わせになっており、そこで子ども達が高齢者とふれ合えるというような趣旨。

右下には芽小の所の子どもセンター、発達支援センター、リすどんがある場所。障がいを持ったお子さんとふれ合える場所という意味合いで作っている。

考え方としては、子どもの施設を単独で作るのではなく、そういったふれ合いができるようにすることで色々な教育ができるのではないかというもの。

【意見】

この度、成人が18歳になるということで、各自治体の行う成人式をどのようにするかニュースでも話題となっている。町はどう考えているのか。

【町長】

別の地域でも同様の質問があった。

お答えとしては検討中ということになるが、ある年だけそうしてしまうと18、19、20という3か年の成人式、すなわち600人程の大成人式となってしまう

う関係もあり、世代別のことも考えて色々と調整すべき部分もある。今の所は、まだ従来通り 20 歳を対象とするという方向で進めているが、色々な自治体の流れや全国的な流れも見ながら今後も検討していく。

余談になるが、現在、200 人程各学年の子どもがいるが、昨年中に出産したお子さんというのは 100 人を切っており、非常に人口が少なくなっているという現状。人口減少は全国的な問題ということもあり、現実的には人口を増やすことは難しい。

町としては、今現在住んでいる方が、地域ごとの活動も含め生き活きと過ごせる町づくりを目指したいと考えている。



11:00 終了